

2023年度の活動報告

中期ASV経営 2030ロードマップで掲げる2つのアウトカムの実現に向けた取り組みと、それを支える事業基盤の強化について、2023年度の進捗を報告します。

アミノサイエンス®で 人・社会・地球のWell-beingに貢献する

2030年 味の素グループのアウトカム

10億人の健康寿命を延伸

▶ P034

環境負荷を50%削減

▶ P048

事業基盤の強化

社会

▶ P094

ガバナンス

▶ P130

サステナビリティのホリスティック（包括的）なアプローチ

味の素グループは、事業を通じてアミノサイエンス®をベースとしたポジティブインパクトの最大化、ネガティブインパクトの低減を目指します。また、ホリスティック（包括的）なアプローチで様々なサステナビリティ課題への挑戦を続けています。

味の素グループは、アミノサイエンス®で人・社会・地球のWell-beingに貢献することを目指しています。そのためには、2030年までに「環境負荷を50%削減」と「10億人の健康寿命を延伸」のアウトカムを両立して実現することが必要と考えています。

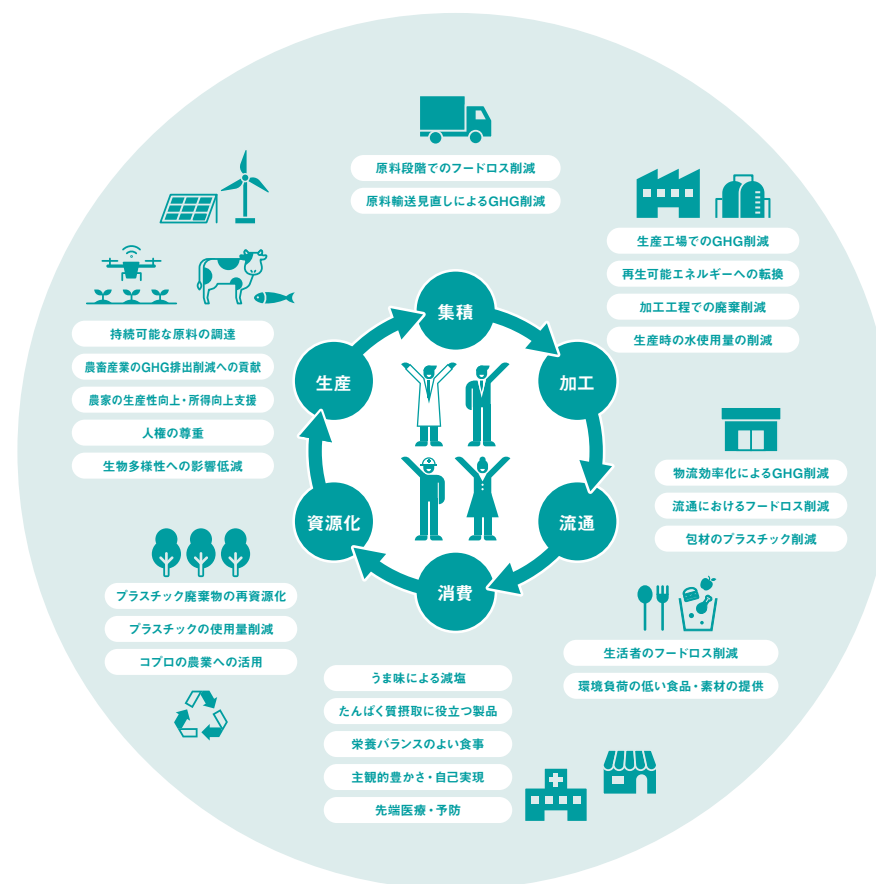
味の素グループの事業は、安定した食資源と、それを支える豊かな地球環境の上に成り立っています。一方で、事業を通じて環境に大きな負荷もかけています。地球環境が限界を迎えつつある現在、その再生に向けた対策は当社グループの事業にとって喫緊の課題です。気候変動対応、食資源の持続可能性の確保、生物多様性の保全といった「環境負荷削減」によって初めて「健康寿命の延伸」に向けた、健康でより豊かな暮らしへの取り組みが持続的に実現できると考えています。

味の素グループは事業を通じて、おいしくて栄養バランスの良い食生活に役立つ製品・サービスを提供するとともに、温室効果ガス、プラスチック廃棄物、フードロス等による環境負荷の削減をより一層推進し、また資源循環型アミノ酸発酵生産の仕組み（バイオサイクル）を活用することで、レジリエントかつ持続可能なフードシステムと地球環境の再生に貢献していきます。

そして、環境負荷等のネガティブインパクト（負の影響）を着実に低減しながら、味の素グループの強みであるアミノサイエンス®を最大限に活用して、社会へよりポジティブなインパクト（良い影響）を創出していくことを目指しています。

レジリエントなアグリフードシステム

味の素グループが目指すのは、2050年の世界の人々を支える、レジリエントなアグリフードシステムの構築。地域社会と密接に協力しながら、国際社会と連携を進めています。

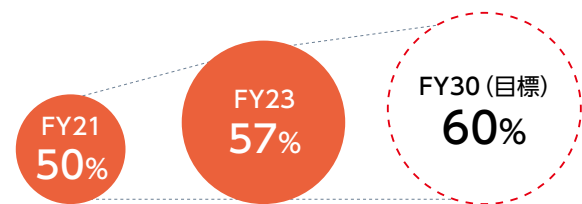


主要な取り組みと進捗

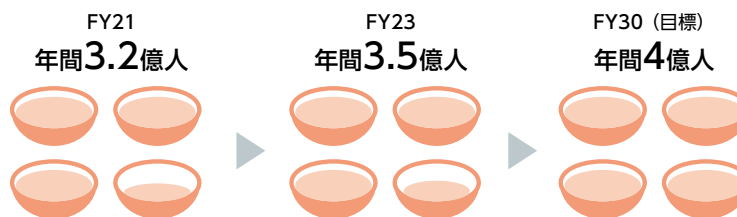
栄養コミットメント

私たちは、2030年までに、生活者との接点を現在の7億人から増やすと共に、「妥協なき栄養」のアプローチにより以下の取り組みを進め、おいしさに加え栄養の観点で顧客価値を高めた製品・情報を提供することで、10億人の健康寿命の延伸に貢献します。

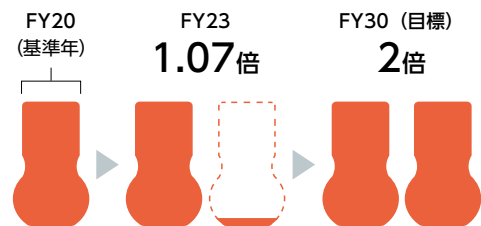
栄養価値を高めた製品*の割合



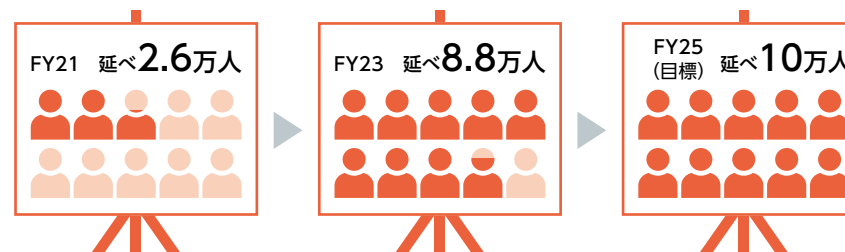
栄養価値を高めた製品のうち、「おいしい減塩」「たんぱく質摂取」に役立つ製品の提供



アミノ酸の生理機能や栄養機能を 活用した製品の利用機会



従業員向けの栄養教育

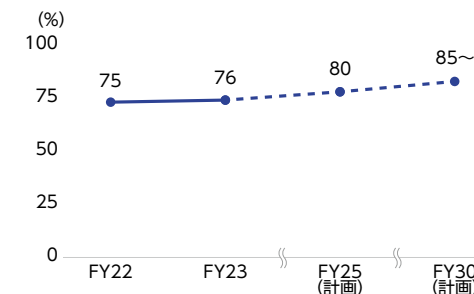


* 国際公衆衛生の観点から重要な栄養成分の摂取の改善・強化に寄与する、味の素グループの基準を満たす製品

▶ P035

従業員エンゲージメントスコア (ASVの自分ごと化)

- 「ASV指標」の理解を深め志への共感を醸成し、挑戦できる風土を高めます。
- 測定方法を、「ASV自分ごと化」の1設問から、より実態を把握できる「ASV実現プロセス」の設問項目の平均値へと2022年度スコアから変更します。



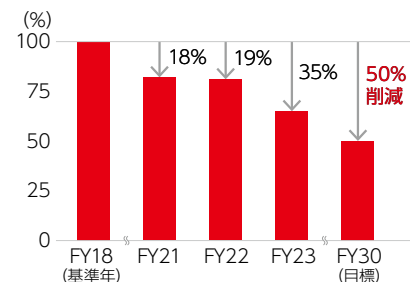
▶ P097

気候変動対応

- 温室効果ガス排出量は、2018年度比で、2030年度にスコープ1、2で50%、スコープ3（カテゴリ11除く）で24%削減を目標としています。また、2050年度ネットゼロを目指します。
- 水使用量対生産量原単位は、2005年度比で、2030年度に80%削減を目標としています。

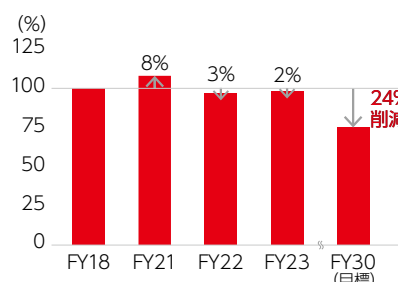
▶ P057
▶ P091

温室効果ガス排出量削減率 (対2018年度スコープ1、2総量)^{※1}

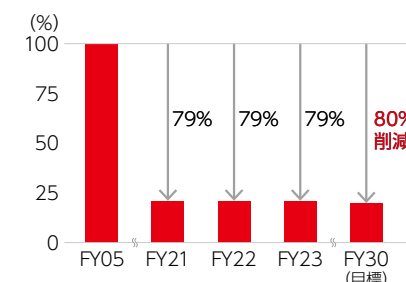


※1 SBTi目標に対する実績

スコープ3（カテゴリ11除く）の 生産量1トン当たりのGHG排出量原単位^{※1} 削減率（対2018年度）



水使用量対生産量原単位削減率 (対2005年度)

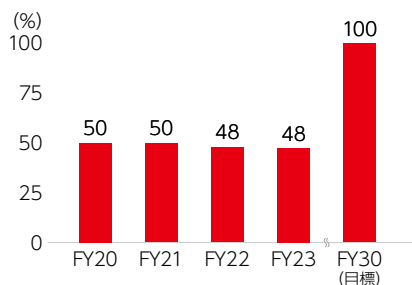


資源循環型社会の実現

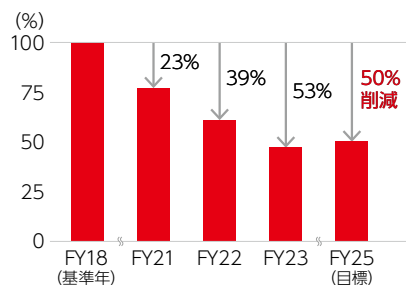
- プラスチック廃棄物は、2030年度にゼロ化を目指します。
- 原料の受け入れからお客様納品までで発生するフードロスを2025年度までに2018年度比で半減する目標を掲げています。
- 原材料を限りなく有効に使うことでごみ等の廃棄物を削減し、資源化率99%以上を維持します。

▶ P069
▶ P080

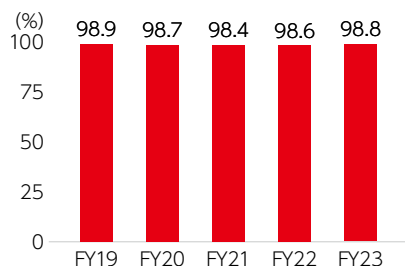
リサイクル可能なプラスチック^{※2}比率



フードロス削減率 (発生量対生産量原単位)^{※3} (対2018年度)



資源化率



※2 技術的にリサイクル可能なプラスチック。2019年に総量調査を実施、2020年以降のリサイクル可能比率は、国内主要事業部のみ更新

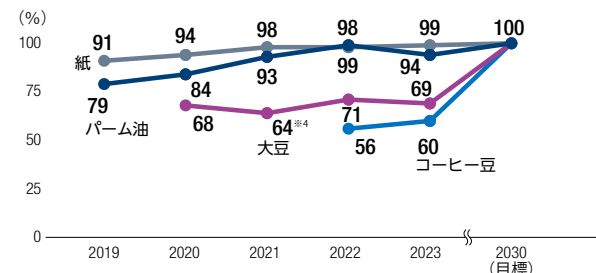
※3 原材料受け入れからお客様納品まで

サステナブル調達の実現

- 重点原材料の持続可能な調達比率を、2030年度までに100%とすることを目標としています。

▶ P086

持続可能な調達比率



※4 国内事業向け調達分

- サトウキビ、牛肉：2030年度目標 100%

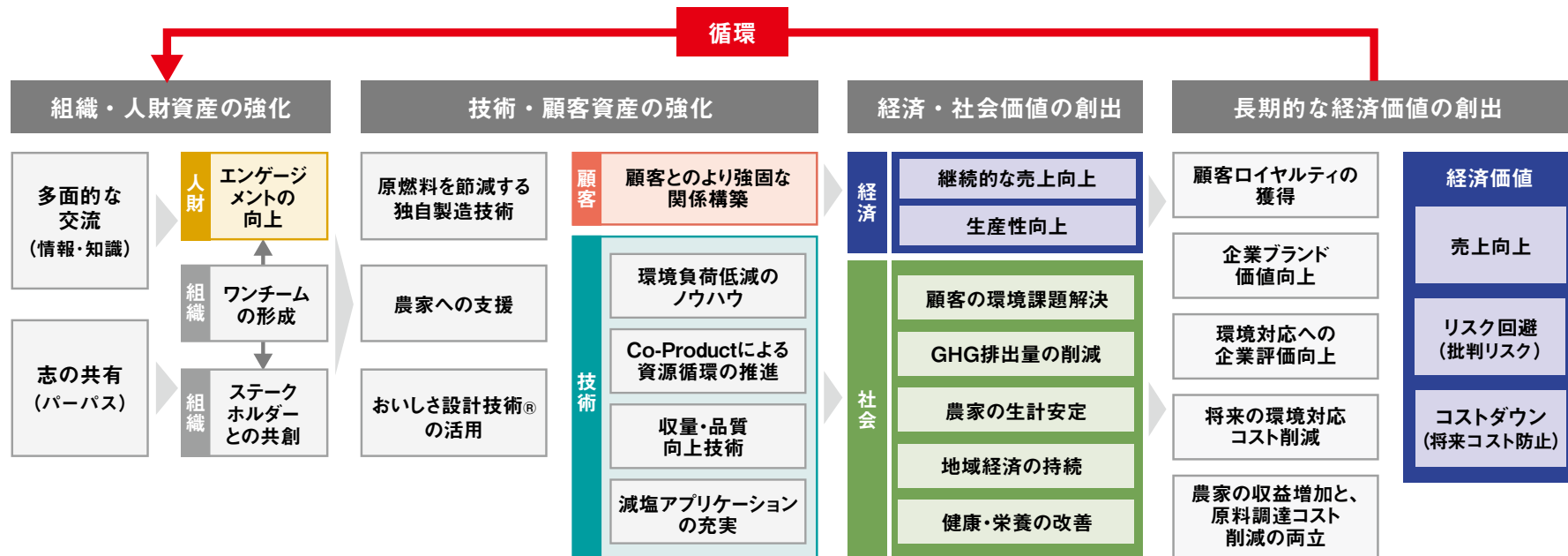
タイにおけるうま味調味料事業のバリューチェーンを通じた価値創出の道筋

味の素グループでは、多面的なコミュニケーションや志（パーパス）の共有により、各人が仕事の意義に理解を深め、「ありたい姿」の実現に向けて共創していくワンチームを形成しています。原燃料を節減し、温室効果ガスを削減する環境負荷の低い製造方法や、製造副生物を肥料や飼料、土壌改良剤として再利用する資源循環、また「おいしさ設計技術[®]」による減塩製品や

栄養バランスのよいメニュー提供等、アミノサイエンス[®]を活用した独自の技術やノウハウを磨き、取り組みを推進しています。

それにより、GHG排出量の削減や農作物の収量安定・増加による農家の生計安定、地産地消のエコシステム構築による地域経済や文化の持続等、顧客、環境、サプライヤー、コミュニティ、生活者にとっての社会価

値を創出しています。顧客との関係構築やプロセスのコスト構造強化によって売上高向上と生産性向上を実現しました。また、それらは顧客ロイヤルティの獲得や企業ブランドの価値向上等、長期的な経済価値の創出につながることで従業員の成長機会が拡大し、やりがいも向上します。無形資産がさらに蓄積され、循環していくことでASV経営を進化させていきます。



味の素グループの志（パーパス）の実現に向けた変革、およびサステナビリティの取り組みを支えるDX

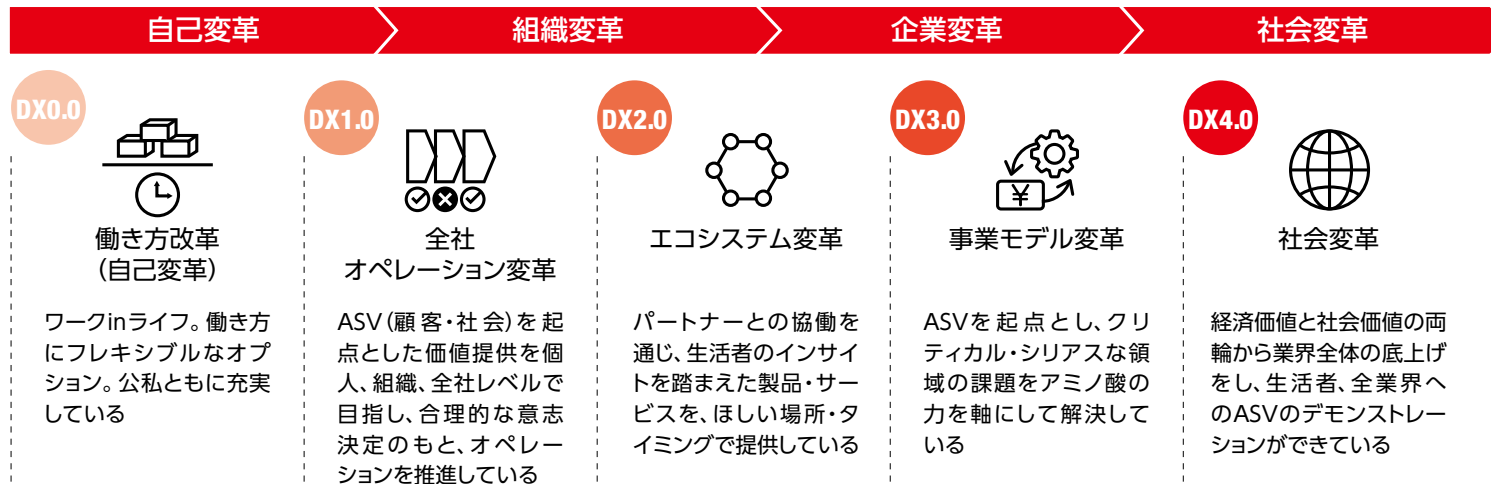
当社におけるDX

広義のデジタル・トランスフォーメーション（DX）とは、社会のデジタル変容を意味するものと捉えています。当社グループでは「アミノサイエンス® で人・社会・地球のWell-beingに貢献する」を志（パーパス）として、社会価値と経済価値を両立させるASV経営を進化

させ、「志×熱×磨」を追求し、「スピードアップ×スケールアップ」を図る手段としてDXを推進しています。そして当社グループが真の意味で「アミノサイエンス® で人・社会・地球のWell-beingに貢献する企業」に変革することをDXの目的としています。

またサステナビリティの取り組みを推進するためにも、DXは重要な役割を果たしています。

DX⇒dX デジタルを活用した**企業変革**
Digital TRANSFORMATION



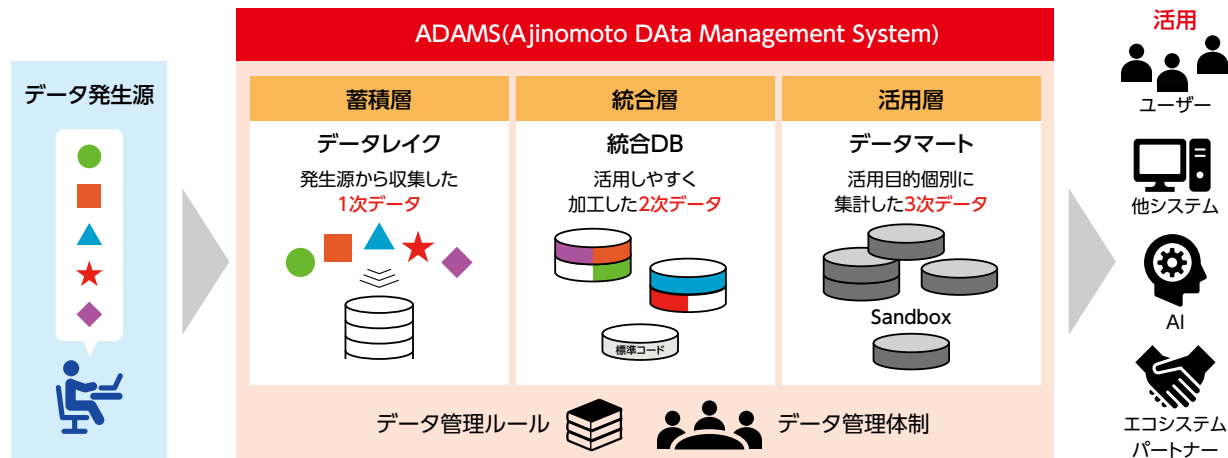
データマネジメントの強化

味の素グループのデータ資産をグループ全体で共有・継承し、安心にかつ自由自在にデータを活用することにより価値創出を図るべく、「ADAMS」味の素データマネジメントシステムを構築しています。

まずは国内食品におけるサプライチェーンマネジメント領域のデータを蓄積し、流通在庫の可視化や原料調達業務の効率化等でのデータ利活用を開始しました。「ADAMS」導入により見えてきた効果として、①デー

タ関連投資抑制や既存データ基盤の統廃合によるコスト削減 ②データ分析時間短縮、作業負荷軽減によって社員がより付加価値のある業務にシフトし、生産性とエンゲージメントが向上 ③各国、事業所で閉じられていたデータを、組織を超えて共有することにより、組織横断での全体最適視点で業務判断ができる等があります。今後、順次対象となるバリューチェーンの拡大や海外を含めた対象事業の拡大を図っていきます。

「ADAMS」の概要



デジタル活用（市民開発強化）に向けたDX人材育成の推進

2020年より開始したビジネスDX人材育成コースでは、デジタルリテラシー向上を目指した学び放題プログラムを提供し、味の素（株）従業員の80%以上にあたる2,000人超が受講しました。現在はノー／ローコードツール活用による市民開発強化に向けて、新たに「Udemy Business」学び放題プログラムを提供し、500人超のメンバーが学んでいます。市民開発や生成AIを活用しているメンバー相互の情報交換や事例共有を目的として、「Power BI」、「Power Automate」& 「Power Apps」、生成AIに分けてコミュニティを運営し、メンバーの育成や活用促進に努めています。

味の素グループのDXに対する評価

当社 Chief Digital Officer (CDO) の香田隆之が、Forbes JAPAN 主催「CIO AWARD 2023-2024」で「DX推進賞」を受賞しました。当社のDXに対する取り組みが高く評価されたものです。